

関西大学『国文学』投稿規定

- 一、投稿者は、原則として関西大学国文学会会員に限る。
- 二、委員会の承認があった場合に限り、特例として、上記以外の者の投稿を認める。
- 三、投稿論文は、原則として四〇〇字詰め原稿用紙四〇枚以内とする。
- 四、投稿論文の採否は、委員会で決定する。
- 五、投稿原稿の返却を希望する場合は、切手を貼った返信用封筒を添付すること。
- 六、掲載された原稿の著作権は執筆者が有する。ただし、原稿の二次利用としての電子化利用の権利は、掲載時点で執筆者が関西大学国文学会に許諾したものとす。

◇編集後記

『国文学』第一〇二号をお届けする。今号は、蕪村や芭蕉をはじめとする近世俳諧研究者の嚆矢藤田真一教授の御退職記念号である。多くの会員や、先生ゆかりの研究者にご寄稿をお願いし、充実した内容になっている。残念ながら、先生は、本年三月で本学を去られるが、本学での最終講義は大変興味深く、新しい知見が得られ、学内外で好評を得た。先生の研究活動は、今後より一層充実していくこととなるであろう。これからも、関西大学の後進の我々を温かく見守り、先達として導いてほしいものだ。なお、今号には、先生の自伝的「年譜」があり、異色に富む味わい深い内容となっている。先生の玉稿と共に、お楽しみ下さると有難い。

学会には、悲しいニュースもあった。浦西和彦名誉教授が、昨年十一月十六日にご逝去された。日本近代文学、書誌学の権威でもある浦西先生を亡くしたことは実に遺憾である。浦西先生の学問に向かう姿勢は鬼気迫るほどの凄さがあり、亡くなる直前にも新たなお仕事を企画していた。研究とは、より高みを目指し、飽くなき追及をしていくことだ。本学の名誉教授の諸先生方の姿勢を見習い、継承し、関西大学国文学会の益々の発展に尽力していきたい。(周)